

農村地域の内発的發展に向けた 住民の地域愛着の醸成に影響を及ぼす要因分析 —山口県長門市俵山地区を事例として—

○新里 早映* 中島 正裕** ルーク デイリー*** 安藤 光義***

*東京農工大学大学院農学府 **東京農工大学大学院農学研究院 ***東京大学

1. はじめに

2005年「地域再生法」
地域でできることは地域で
農村地域の内発的發展

しかし「総論賛成・各論不在」(小田切,2012)
“住民の内発性をどのように醸成し
具体的な行動につなげていくか”

先行研究では

地域づくり(主に都市)における**住民の主体的な行動**を
促す要因として**地域愛着**の存在が指摘されている
(鈴木ら,2008; 豊田,2012 ほか)

農村地域における住民の**地域愛着**に着目

■研究目的

- 目的① 地域愛着の**概念整理**と**評価尺度**の設定
- 目的② 先行研究における**地域愛着**の醸成に影響を及ぼす**要因の整理**
- 目的③ 農村地域における住民の**地域愛着**の醸成に影響を及ぼす**要因の解明**

2. 研究方法

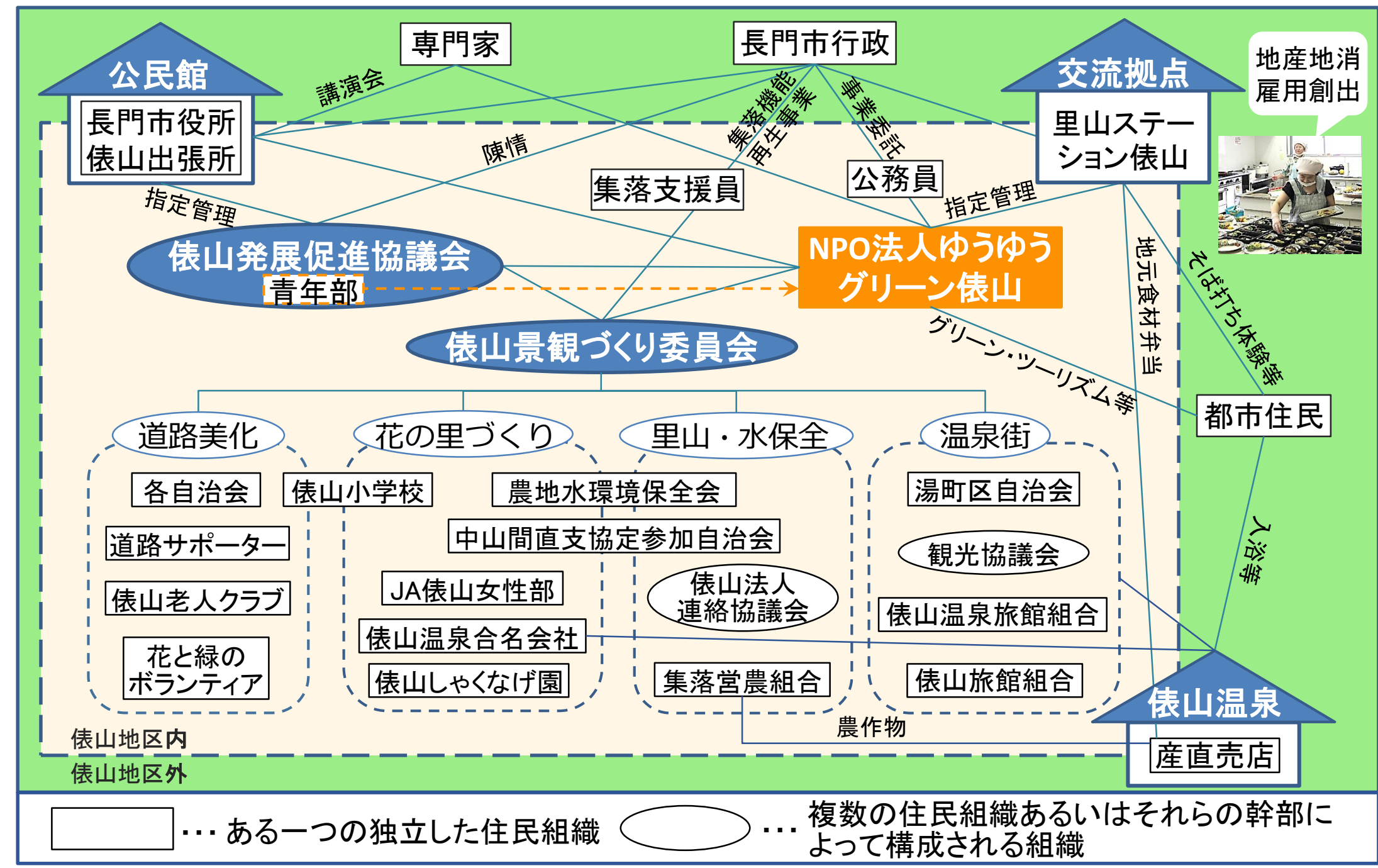
2-1 調査対象地 山口県長門市俵山地区



人口: 1064人(466世帯) 高齢化率: 49%
面積: 50.6km² 林野率: 84.6%
産業: 農業(米・果樹)、林業、温泉(2016年12月現在)

NPOを中心に福祉やグリーン・ツーリズム等、
住民主体で“**誇りをもって住み続けられる地域**”
を目指した活動が継続的に行われている。

2-2 俵山地区の内発的な地域づくり



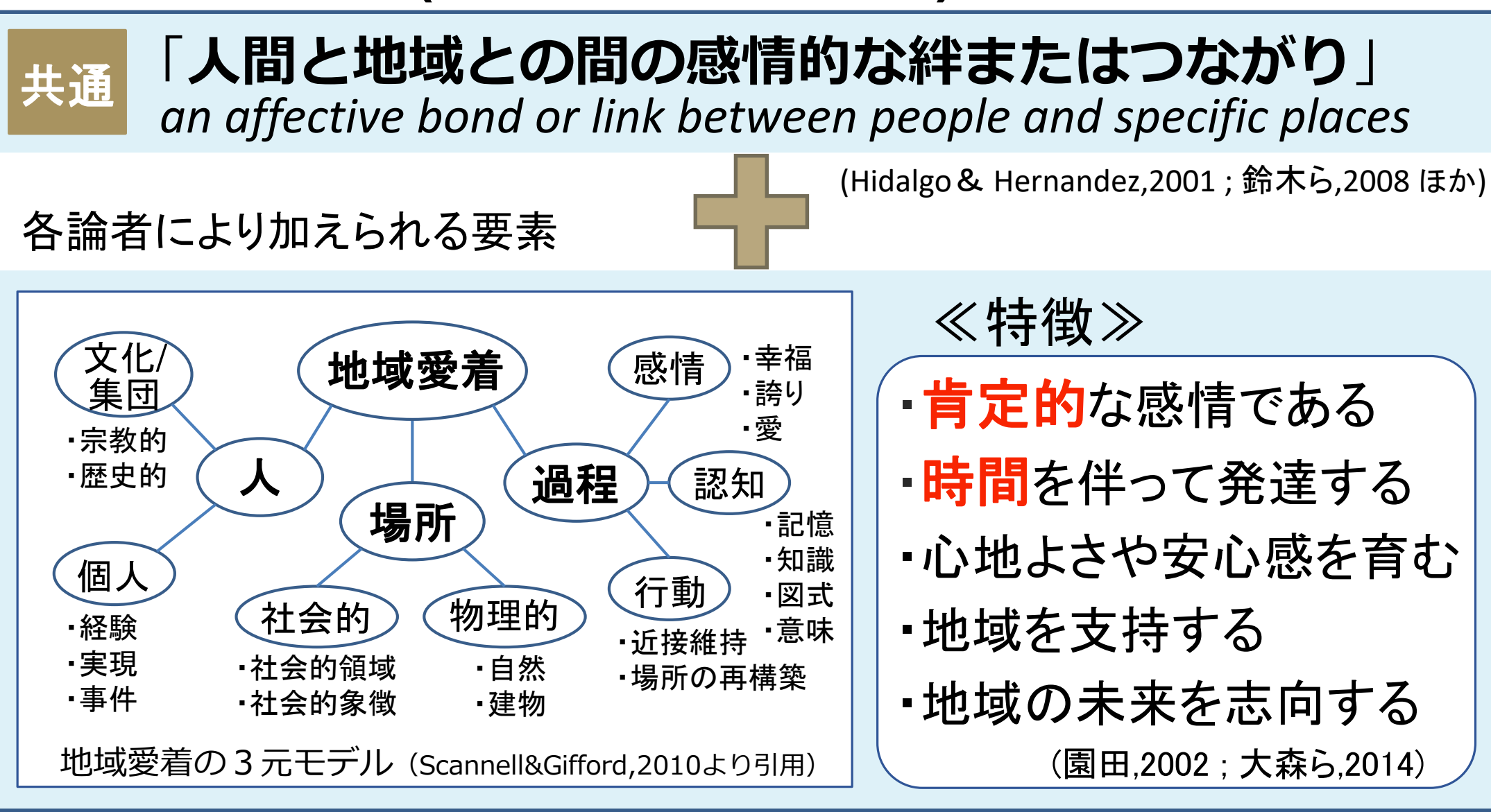
2-3 調査・分析方法

文献調査(地域愛着および関連概念に関する論文)	86本(和文26, 英文60)
文献調査(地域愛着の醸成に関する論文)	62本(和文45, 英文17) ⇒ アンケート設計
参与観察(インターンシップ参加: 2016/8/13~22)	集落活動および地域づくり活動の把握
アンケート調査(2016/11/4~8, 20歳以上対象)	有効回答数103部(回収率44.8%) ⇒ 共分散構造分析
ヒアリング調査(2017/1/13~16, NPO理事等12名)	各人の地域との関わり方と地域に対する想いの把握

定量・定性
双方から
分析する

3. 地域愛着の概念整理と評価尺度の設定 (目的①)

3-1 地域愛着 (Place attachment) の概念整理



本研究の定義
人間と地域との間の感情的なつながりであり、
段階的に深まる肯定的な心理

3-2 地域愛着の評価尺度

地域愛着 選好	地域は住みやすいと思う 地域にお気に入りの場所がある 地域を歩くのは気持ちよい 地域の雰囲気や土地柄が気に入っている 地域が好きだ 地域ではリラックスできる
地域愛着 感情	地域は大切だと思う 地域に愛着を感じている 地域に自分の居場所がある気がする 地域は自分のまちだという感じがする 地域にずっと住みたい
地域愛着 持続願望	地域にいつまでも変わって欲しくないものがある 地域になくなってしまおうと悲しいものがある

5件法(「1. 全くそう思わない」~「5. とてもそう思う」)で評価

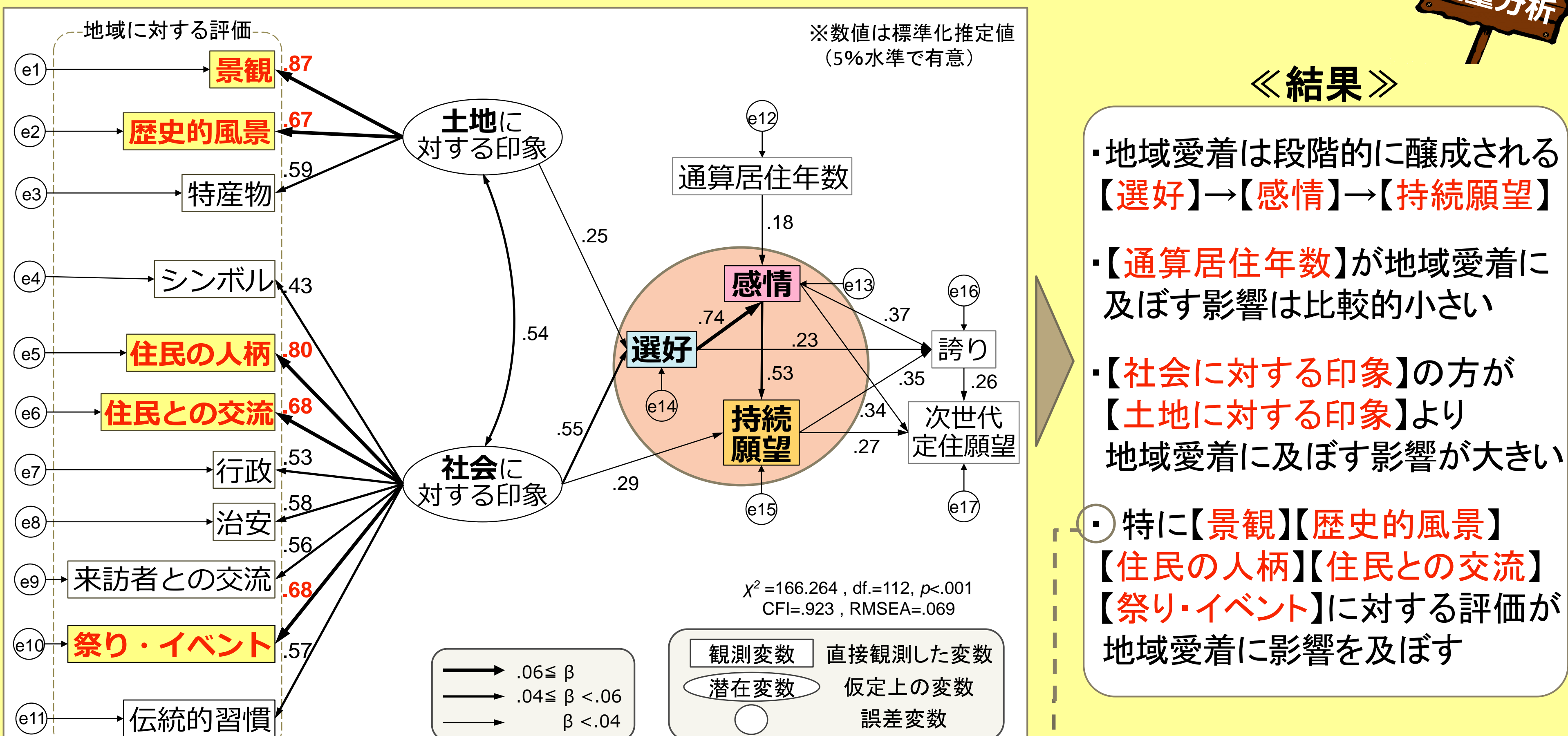
萩原ら(2005)が用いた
評価尺度を採用する

「援用理由」

- 肯定的な感情を含んでいる
- 時間軸が考慮されている
- 農村計画に近い複数の分野(都市計画、土木計画等)において援用されている
- 都市地域との比較が可能である

5. 農村地域における住民の地域愛着の醸成に影響を及ぼす要因の解明 (目的③)

5-1 共分散構造分析による因果構造の推定



「結果」

- 地域愛着は段階的に醸成される【選好】→【感情】→【持続願望】
- 【通算居住年数】が地域愛着に及ぼす影響は比較的小さい
- 【社会に対する印象】の方が【土地に対する印象】より地域愛着に及ぼす影響が大きい
- 特に【景観】【歴史的風景】【住民の人柄】【住民との交流】【祭り・イベント】に対する評価が地域愛着に影響を及ぼす

■定量的に抽出された要因

要因	主な内容
景観	四季の移り変わり 幼い頃からなじみある風景(田んぼ、川等)
歴史的風景	昭和の情緒たどる温泉街の町並 日々の暮らしの中にとけこんでいる風景
住民の人柄	団結力と行動力が強い 信頼できる
住民との交流	日常的な酒飲みや温泉の入浴 地域活動を通しての人とのつながり
祭り・イベント	行事の後の飲み会 地域行事による地域とのつながり

5-2 口述データによる要因抽出

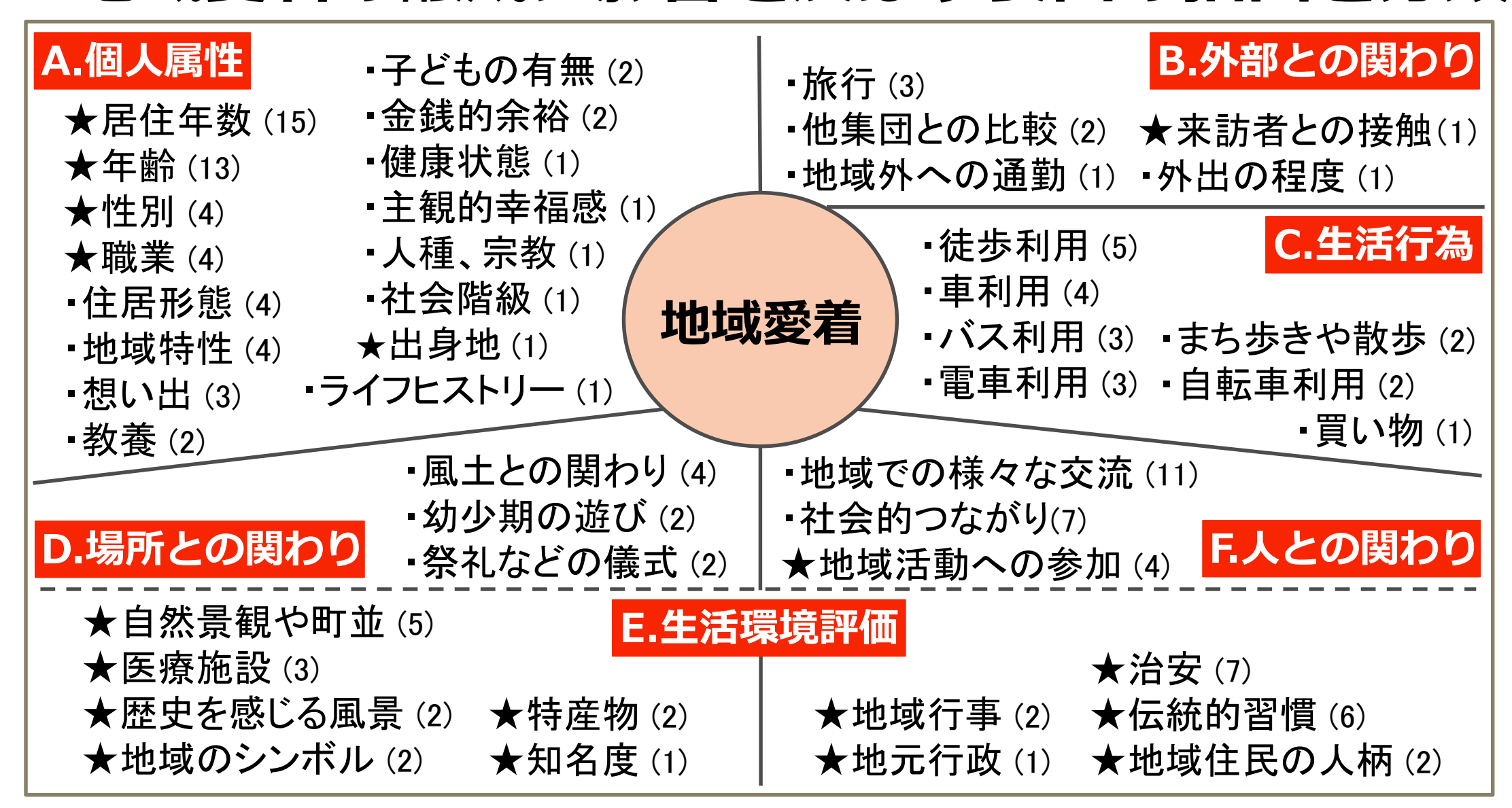
要因	主な内容
来訪者との交流	地域のよさ、かけがえのなさの発見 地域への誇りを取り戻す
外部との比較	住民の人柄のよさ、まとまりのよさ 温泉の質の良さ
子どもの存在	子どもと地域ですごした思い出 子育て仲間との交流
環境の変化	中学校の統廃合によるショック 人口減少や少子高齢化への危機感

定性分析

定量分析の対象であったが抽出されなかった要因

4. 先行研究における地域愛着の醸成に影響を及ぼす要因の整理 (目的②)

■地域愛着の醸成に影響を及ぼす要因の抽出と分類

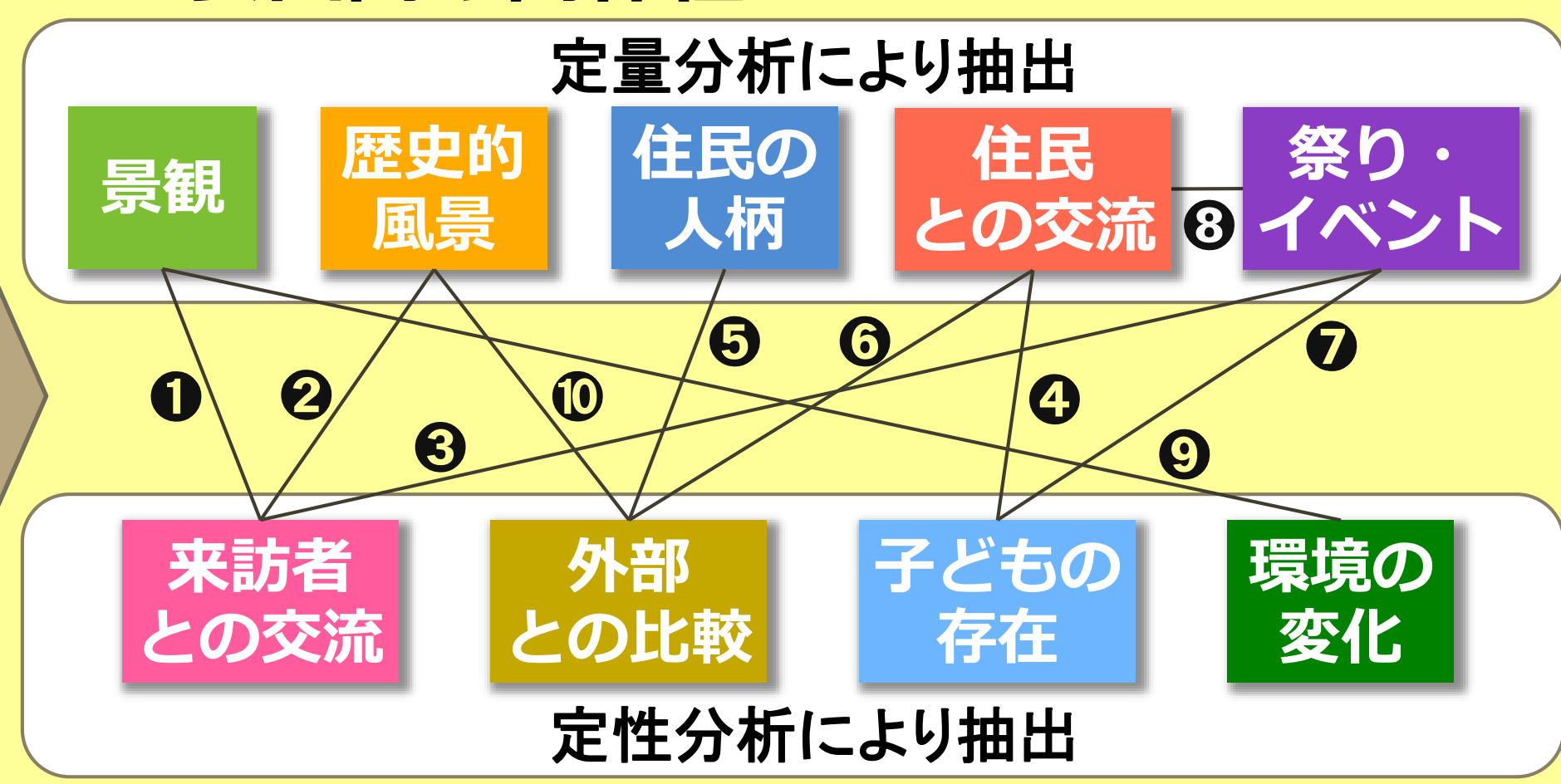


※(数字): 該当項目が地域愛着に影響を及ぼすことを示す論文の数

■地域愛着に関する現場の声

- ① 当たり前の景観が来訪者から高く評価されて嬉しい
- ② レトロな町並みが来訪者から高く評価されて嬉しい
- ③ イベントでたくさんの方が来ると活気が出て嬉しい
- ④ 子育てを一緒にしてきた仲間がいて心強い
- ⑤ 他地域と比べて住民の団結力が強く感心する
- ⑥ 他地域と比べて人のつながりが強く居場所を感じる
- ⑦ 子どものためにイベントを企画したり参加したりする
- ⑧ 集まって行事をした後で飲めるのがまた楽しい
- ⑨ 少子高齢化が著しいが景観の荒廃は防ぎたい
- ⑩ 温泉あつての俵山。温泉がなくなる事が一番いけん

5-3 要因間の関係性



6. まとめと今後の課題

■まとめ

農村地域における住民の地域愛着の醸成に影響を及ぼす
要因とそれら要因間の関係性を解明した。定量・定性双方
の分析を用いることにより、実証性の高い結果が得られた。

■今後の課題

- ① 本研究で得られた成果を他地域で検証する。
- ② 住民の意識(地域愛着含む)が内発的な地域づくりの行動に結びつくメカニズムの解明を行う。

定量分析により地域愛着に影響を及ぼすことが明らかとなっ
ている項目(★印)をもとに地域愛着に関するアンケートを設計した。

参考文献
[1]萩原剛・藤井(2005): 交通行動が地域愛着に与える影響に関する分析. 土木計画学研究・講演集, 32. [2]日地博之・青木俊明・大淵憲一(2009): 地域に対する愛着の形成機構. 土木学会論文集D, 65(2), 101-110
※本研究は日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)16K07945「集落・校区間における住民主体の計画理論の構築」(代表: 丸尾彰彰), 基盤研究(B)24380125「内発的農村発展戦略に関する日英比較」(代表: 小田切徳美)の助成を受けたことを付記する。